

5

まちなみの連続性に貢献する みどりをつくる

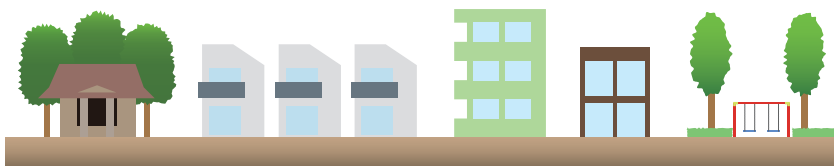
● 接道部を緑化しよう

道路に面した場所に生け垣をつくったり、塀を緑化したりすることで、一体感のあるみどりのまちなみをつくることができます。

● まわりとの調和を意識してみどりをつくろう

隣の敷地のみどりや、景観のシンボルとなっている近隣のみどりと同じ種類の樹木、草花を用いると、まちなみの一体感がより高まります。

Before



After



6

みどりの配置や手入れを 考える

● 生長後の形や大きさをイメージして樹木を選ぶ

高木を植える時は、生長後の高さ・枝張りが敷地の広さに合う種類を選ぶことが大切です。また、葉や実、折れた枝が屋根や隣の敷地に落ちない場所や冬に自宅や隣家への日差しを遮らない場所を考えて植えることで、管理の負担が軽くなります。

● 適切に手入れをしよう

隣地に飛び出した枝や、枯れた枝は、通行の障害となったり、人にけがをさせてしまう恐れがあります。こまめな剪定や水やりなどの手入れを適切に行うことが大切です。

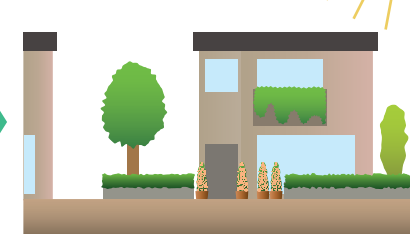
● 鉢植えやプランターを活用しよう

移動できる鉢植えやプランターを活用することで、日陰側が枯れてしまう植物の向きを変えて全体に日光を当てる、暑さに弱い植物を夏の間だけ日陰に移すなど、植物の特性により適した育て方をすることができます。

Before



After



コラム

みどりが私たちの暮らしにもたらしてくれるもの

みどりは、私たちにうるおいや安らぎを与え、魅力あるまちなみをつくとともに、ヒートアイランド現象や地球温暖化といった都市の環境問題の改善、都市の防災性の向上、子どもたちの感性の醸成、生物多様性の確保等、さまざまな役割を担います。

みどりの景観づくりをとおして、まちにみどりが増えると、これらの役割や効果がより発揮されるようになり、私たちの暮らしに多くの恩恵をもたらしてくれます。

